

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	国際基督教大学
整理番号	B13
構 想 名	信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント)	<p>本構想は、大学の理念に則り、開学以来取り組んでいる日英両言語によるバイリンガル・リベラルアーツ教育を世界に開かれた「グローバル・リベラルアーツ教育」へと発展させるため、教育改革、徹底した国際化、教育力向上の取組を進めることで、国際的社會人としての教養をもつ有為の人材の育成を目標としている。</p> <p>構想実現のための体制構築については、学長のリーダーシップの下で、計画に沿った組織整備、体制整備が着実に進められている。また、学生・教員に対する一元的かつ総合的な支援体制として「学修・教育センター (CTL)」を設置し、学生への学修支援と教員への教育支援を統合した包括的な支援に取り組んでいる点も評価出来る。</p> <p>国際化関連については、教員に占める外国人教員等の割合は 90%以上であり、専任教員に占める女性の比率も 40%前後と、十分な多様性が確保されている。語学力関係では、平成 28 年度の外国語による授業科目数が全授業科目数の 28.9%を占めており、極めて高い割合になっている。学生の語学力は元々高いレベルにあり、今後の向上も見込まれる。また、学部教育においては開学以来の方針を堅持し、全ての学生の日英両言語での学修を必修としているが、大学院教育では留学生の実情に合わせて英語のみでも修了可能とするなど、特色ある取組が成されている。</p> <p>ガバナンス改革については、年俸制の導入には慎重である一方で、人事システムとしては特別招聘教授制度を取り入れ、テニユア・トラック制度もスタートさせた。事務職員に関しては語学力も高く、本事業の実施体制も整っている。更なる事業の推進には、全教職員の理解と協力が不可欠であり、単なる情報共有に留まらない意識の共有等の工夫も必要であろう。入試改革では、TOEFL 等外部試験の学部入試への導入や多面的入学者選抜のための制度の整備が順調に進められている。</p> <p>大学独自の達成目標については、英語での卒業論文執筆、授業時間外での学習時間増加への取組をはじめとして、きめ細かな独自の指標を定めている。一部数値目標に達していない項目はあるものの、大学全体の取組として、総じて努力と成果が認められる。</p> <p>構想としての目標は十分に達成出来る見通しであるが、今後はより高い目標を目指してその目的を高レベルで達成すべく、引き続き改善を図りながら取り組むことが望まれる。高度な人材育成に向けた意欲的な取組が展開されることを期待したい。</p>